

マタニティ・ブックスタートを起点とする切れ目のない 子ども読書活動、「科学」を柱にした子ども読書活動、他

山口県 山陽小野田市立中央図書館

基本データ

所在地	山口県山陽小野田市栄町 9番13号
職員数	17人
うち司書数	10人
蔵書数	266,103冊
利用登録者数	43,623人
年間貸出冊数	241,016冊
(児童用図書貸出数 77,951冊)	

テーマ・活動のねらい等

【テーマ】子供の読書啓発、子供に対するサービスの充実

【活動のねらい】

- お腹の中の赤ちゃんから高校生くらいまでを対象に、幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校、大学等の教育機関と連携を取り、切れ目のない子ども読書活動を推進する。図書館内だけでなく、図書館が地域に出かけ市域全体で子どもと本の出会いをつくる。

取組・活動の概要

(1) マタニティ・ブックスタートを起点とする 切れ目のない子ども読書活動の推進

各年代を対象にした以下①～⑩の事業を実施

① 「マタニティ・ブックスタート」

- (対象：妊婦と胎児) 平成15年度から実施。妊婦を対象に、2冊の絵本の中から1冊を本人が選び、オリジナルのバックに入れてプレゼントする。

② 「乳幼児おはなし会」

- (対象：0～2歳児くらいまで) 週1回。おはなし会の実施。

③ 「子育て絵本カフェ」

- (対象：0～2歳児くらいまでの子どもと保護者など) 月1回。おすすめの本の紹介など。

④ 「絵本で笑顔！フォトコンテスト」

- (対象：乳児～) 年1回。子どもが絵本を楽しんでいる様子を写真に撮って応募。来場者による投票で賞を決定。

⑤ 「ぬいぐるみの図書館おとまり会」

- (対象：幼児～) 年1回。持っているぬいぐるみを図書館に預けて、そのぬいぐるみが図書館を探検したり絵本を読んだりしている様子を写真に撮影。返す際に写真を貼ったレポートと共にぬいぐるみが読んでいた絵本を貸出す。

⑥ 「英語でおはなし会」

- (対象：幼児～小学生) 月1回。英語と日本語で絵本の読み聞かせを行う。

⑦ 「チームで挑戦！図書館にいる〇〇〇をさがせ！」

- (対象：幼児～) 年1回。児童書コーナーの中から図書館が指定した「おおかみ」や「おばけ」などが出てくる本を探し出し、制限時間内で集めた冊数を競う。「〇〇〇」は当日発表。

⑧ 「チームで解決！図書館からの挑戦状」

- (対象：小学生～) 年1回。図書館で用意した課題を資料を使ってチームで解決する。

⑨ 「中学生によるおすすめ本の展示」

- 年1回。市内中学校の図書委員がおススメする本を図書館で展示する。ディスプレイやキャプションづくりも図書委員が行う。

⑩ 「高校生によるおすすめ本の展示」

- 年4回。市内高校の図書委員がおススメする本を図書館で展示する。ディスプレイやキャプションづくりも図書委員が行う。

(2) 「科学」を柱にした子ども読書活動の推進

- ① 「ちっちゃなかがくのおはなし会」
 - (対象：3歳～小学校低学年) 月1回。「科学」をテーマにしたおはなし会と科学工作。
- ② 「おもしろ科学大実験」
 - (対象：小学生) 年1回。市立山口東京理科大学の学生による科学の実験をいくつかのテーマで行う。
- ③ 「竜王山たんけんツアー」
 - (対象：小・中学生) 年1回。豊かな自然環境を誇る竜王山に出かけ、山中にあるビオトープの生物・植物などを観察する。

(3) 「地域に出かけて行う出前講座」

- ① 「絵本で子育て出前講座」
 - (対象：市内幼稚園、保育園) 年6回。市内在住の児童文学作家が市内の幼稚園、保育園に出かけて、絵本の読みあいをする。
- ② 「出前幼稚園」
 - 月1回。図書館の近くにある幼稚園に出かけ、絵本の読み聞かせや紙芝居の上演、団体貸出などを行う。
- ③ 「学校出前図書館」
 - (対象：市内全小・中学校1年生) 年1回。職員が、市内の小中学校に出かけ、本の紹介、団体貸出などを行う。
- ④ 「放送ブックトーク」
 - 月1回。市内の中学校に出かけ、お昼の時間を利用して放送で本の紹介をする。

取組・活動の工夫や特徴

- 小・中学校との連携はこれまでもあったが、高等学校や大学との連携は、ここ数年で進んだ。
- 3歳から5歳の子どもに向けて、最初は「たんじょう月のおはなし会」を実施してみたが、思うような参加がなく、「ちっちゃなかがくのおはなし会」としたところ人気のある行事となった。

- 「チームで挑戦！図書館にいる〇〇〇をさがせ！」や「チームで解決！図書館からの挑戦状」など、ゲーム感覚で本の世界を楽しめるよう工夫をしている。

取組・活動の成果や今後の展望

(1) マタニティ・ブックスタートを起点とする切れ目のない子ども読書活動の推進

- マタニティ・ブックスタートで配布するオリジナルブックを持参し、親子や一人で来館できるようにした本好きの小学生が来館している。

(2) 「科学」を柱にした子ども読書活動の推進

- おはなし会で使った本の貸出が多く、家庭でも科学の知識について深めている。
- 竜王山たんけんツアーでは生き物、植物、湧き水に触れたり、味わったりして五感をつかった体験をする。最後に図書館の資料で自ら確認する。
- 図書館フェスティバルの中で、市立山口東京理科大学学生による「おもしろ科学大実験」を行い、科学に関心を持つ子どもの育成に努めている。

(3) 「地域に出かけて行う出前講座」

- 出かけていくことにより、図書館に来館が困難な地域の子ども、保護者や先生方に接触することができ、その後の図書館行事などのスムーズな案内、参加へとつながっている。
- 本を借りるところだけではない、体験型行事などでさまざまな楽しみが味わえ、また、発見がある場として、図書館のイメージが変わっていくよう、さらに工夫とPRを積み重ねていきたい。